

オーディオの部 最優秀賞

「8時15分ヒロシマで生きぬいて許す心」を読んで

広島県立広島中央特別支援学校 高等部普通科第3学年

上田 遥（かみだはるか）

私は、この話を聞いて原爆の恐ろしさを改めて知りました。そして、今平和な毎日を送れていることにも感謝しなければいけないということがわかりました。

この話の中で、私は進示さんのお父さんがいちばんカッコいい人だと思いました。そのように思った場面は次の3つです。

1つ目は、進示さんが瓦礫の下敷きになってしまった時に、お父さんはすぐに手当たり次第に瓦礫をどかせて助けてあげていました。

2つ目は、火事が起きて逃げなければならなくなった時、お父さんは冷静に行動し、火傷や怪我をした進示さんの手を引いて一緒に逃げてあげていました。

3つ目は、病院で治療を受けられるようになった時、お父さんはその場に残って、進示さんに「お前には、ちゃんとした治療が必要だ。しっかりせえ。」とっておられました。

私は、これを聞いて、自分のことよりもまず人のことを思える、そんな人になりたいと思いました。